

日本共産党大垣市議会議員 はんざわ多美の市政報告

第69号 2022年3月号

「ゴミシール廃止と有料化」条例（案）と予算 3月議会で決めるのはやめて！



第1次締切分を出すゴミ問題を考える会の方たち（2022年2月14日）

ゴミ問題を考える会 4500筆の署名を提出！

「市民に知らせないままごみシール廃止し、有料化を決めるのはやめて！」をスローガンに大垣市のゴミ問題を考える会の「拙速なゴミシール廃止条例案の3月議会上程反対の署名」は、開始わずか約3週間後の2月22日には異例の4000筆が集まりました。24日には、さらに追加で500筆が提出されています。

一方で、同じ日に来年度予算概要が市長より発表され、「有料指定ごみ袋制度推進事業」として1億7600万円となっていました。ゴミシール作成委託料等約2000万円の経費節約が発端の制度改革なのに、1億7600万円の内訳は、「有料指定ゴミ袋作成等委託ほか」書かれています。何なのでしょうか。びっくりしています。

新聞報道などで、すでに有料化が決まったような印象を持たれた方もいらっしゃいますが、議決がある最終日の23日（水）まで決定ではありません。市民の思いを反映させるのは議会です。3月議会頑張ります。

えっ、不燃ごみも有料化！？



ゴミ袋有料化案には、不燃ごみも有料指定ゴミ袋に入れることも明記されています。「不燃ごみを有料化した袋に入れて出すってどういうこと？」この問いは特に女性から多く寄せられました。合理的な根拠は、今なお示されていません。

今まで、きれいに分けて集積してきた各自治会の工夫と知恵があったのに、すべてを各家庭で袋にいれて出すなんて今までの苦労は何だったのか。「各家庭から出されたごみ袋の中身はだれがチェックするのか？」疑問はつきません。そして、そうした疑問に答えることもなく、ここぞとばかりに不燃ごみも有料化しようとする条例案に、市民の怒りを強く感じています。

高齢者用のオムツ。介護で出るゴミも有料化！？

今まで、高齢者のオムツ等利用の方へのごみシールの追加配布は、必要な方にたいして比較的ゆるやかに、社会福祉協議会を通じて行われていました。これは、規定枚数までは無料で配布されていたシールがあったからこそやりやすかったことです。今回、計画案にも記者発表案にも、高齢者のオムツへの配慮の文言はありません。有料なので対象者を選定するのが今までより難しいでしょう。高齢者のオムツの量は少なくありません。トイレに行けない悲しみ、オムツ購入の負担、収集所に持っていく負担、そのうえ、ゴミ袋まで有料化されるのは困ると高齢者や介護をする方からは強い怒りと落胆の声がありました。

市民の貧困は進んでいる(約2割が非課税世帯)。ゴミ有料化は新たな負担増!

2月から申請が始まった「非課税世帯等に対する臨時特別給付金」の案内を受けた世帯数は、約14000世帯。大垣市の全世帯の実に2割が非課税世帯等ということです。単身で年間100万円、1か月あたり8万円ぐらいの収入が目安です。

現在の大垣市において非課税世帯が約2割ということは大垣市の貧困化が進んでいる一つの指標となります。少なくない方々が、厳しい家計のもとでの生活をされていると考えられます。そこに、所得に関係なく、一袋50円もしくは30円のゴミ袋代の負担を求める感覚が問われます。

市は財政の中でもっと節約できることに取り組むべきです。ゴミ問題も分別のあり方を検討したり、リサイクル事業の推進などで財政支出の節約を考えるべきで、今回の有料化はあまりにも拙速です。

ゴミシールが果たしてきた役割を再評価－ゴミシールの「豊かさ」



一袋50円は高いにしても、一袋10円程度の指定袋ならシール制より良いのではないか?という思いも最初はありました。しかし、市民の皆さんと話す中で、議員として改めて、ゴミシールの果たしてきた役割を強く感じています。

「美しいまち大垣」の懐の深さ

その一つが、「美しいまち大垣」を損ねてしまうのではないかという声です。「大垣市は、ゴミだらけの汚いまちになる。今は、道路や空き地に捨てられているゴミを市民ひとりひとりが善意で拾っているからきれいなまちが保ててる。きれいなまちを保つために、ゴミシールは大切」と。美しいまちを作ってきたという誇りある高齢者の声は切実です。あるご高齢者は、朝の散歩中、善意で広範囲にわたるゴミ拾いをしておられるそうです。その友達たちは、自分は足が悪いからゴミ拾いができないから余ったシールをお分けしているという話もありました。美しいまち大垣を作ってきた懐の深いゴミシールの歴史を強く感じます。

自治会加入率にも影響!?

もう一つが、「自治会でゴミシールを受け取り、分別して集積所にだすこと」で町内にお世話になっていると感じているのに、ゴミシールがなくなることで、自治会に入っている意味を感じる気持ちが薄れるのではないか」と。ゴミシールを配るという煩雑さはゴミシール制度を実施する中で言われてきたことでしたが、確かに、高い自治会費を払うことはゴミシールを地域で受け取りゴミを出す一連の行為のための費用と感じている市民もいらっしゃるということです。(注 自治会費はゴミシール代金とは違いますが、そう感じてきたということです。) ゴミ集積所で見守ってくださっている地域コミュニティへの感謝の気持ちも、無料のゴミシールで結ばれていた面に気づかされています。この点については、大垣市の自治会加入率の高さをも後押ししていたともいえたのでしょうか。

県内では大垣市と高山市のみ

ゴミシールは全国でも珍しい制度で、岐阜県では、大垣市と高山市がこの方式をとっています。ごみ減量効果が確認できていることからも、多くの自治体が有料化する中でこの制度が守られてきました。

「自己責任」が高らかに言われるご時世に、見えないところでの助け合いや思いやりは、「豊かさ」に違いありません。大垣市の「ゴミシール」の果たしてきた「豊かさ」に思いを巡らせます。今回は、こんなに大切なことなのに、市民と市政が一緒に考える時間が全く足りていません。

